

## －『尾瀬』について調べよう－解答例

### 〈A コース小学校用解答例〉

- 1 ①<sup>しぶつさん</sup>至仏山 ②<sup>ひうちがたけ</sup>燧ヶ岳 ①2228 ②2356 (①と②は逆でも可)
- 2 A 仏炎苞 B 花
- 3 (ミズバショウ) 6月 (他の草花) ワタスゲ、ショウジョウバカマなど  
(ニッコウキスゲ) 7月 (他の草花) サワラン、トキソウなど  
(コバギボウシ) 8月 (他の草花) オゼミズギク、オゼヌマアザミなど
- 4 7月 (植物) ナガバノモウセンゴケ
- 5 オゼコウホネ オゼソウ
- 6 木道 12

湿原を踏みつけると植物が枯れ、泥炭が雨水で流されて、湿原が壊されてしまうから。

- 7 オオバコの種が尾瀬に行く人のくつについて運ばれたから。

### 〈A コース中学校用解答例〉

- 1 特別保護地区 特別天然記念物
- 2 (川の流に沿った林) 抛水林<sup>きよすいりん</sup> (図の左から) 砂れき層 泥炭層
- 3 A 仏炎苞 B 花
- 4 B → C → A
- 5 1400 酸<sup>ちとう</sup> 池塘
- 6 A 蛇紋岩残存植物 (例) コバノツメクサ、タカネシオガマ、オゼソウ  
ミヤマウイキョウなど  
B 蛇紋岩変形植物 (例) ホソバヒナウスユキソウ、クモイイカリソウ  
ジョウシュウアズマギクなど
- 7 尾瀬は長い年月をかけて形成された地域で、希少な動植物などが見られるから。  
また、尾瀬を守るということは、現在の地球環境を守ることにつながるから。

## 〈B コース小学校用解答例〉

1 (位置) A (3つの県) 群馬県 福島県 新潟県

2 (1) ①至<sup>しづつさん</sup>仏山 ②鳩待峠 ③山ノ鼻ビジターセンター ④尾瀬ヶ原  
⑤燧ヶ岳 ⑥尾瀬沼 ⑦アヤマ平

(2) 省略

(3) 至<sup>しづつさん</sup>仏山 燧ヶ岳 <sup>ひうちがたけ</sup>只見 <sup>ただみ</sup> 1400 1660 沼尻

3 ①池塘<sup>ちとう</sup>

尾瀬ヶ原にある大小さまざまな形をした池のこと。数は約 1500 ほど。深さは 1m ほどのものが最も多く、3m を越えるものもある。池塘は、その深さによって水生植物が生育していなかったり、生育する水生植物の種類が異なったりしている。

②ケルミとシュレンケ

泥炭でできた帯状の凸地<sup>とつ</sup>をケルミという。ケルミとケルミの間に帯状にのびる凹地<sup>おう</sup>をシュレンケという。ケルミとシュレンケは何列も集まって、縞状<sup>しま</sup>の地形をつくっている。

③拋水林<sup>きょすいりん</sup>

湿原の中に帯状に連なる森林地帯のこと。川が山から運んできた砂が、川の両岸に堆積してできた自然堤防に樹木が生えてできたもの。

④ナガバノモウセンゴケ

食虫植物で、細長い葉の表面にはねばねばした液<sup>えき</sup>を出す腺毛<sup>せんもう</sup>という毛が密生<sup>みつせい</sup>している。この葉に虫がとまると腺毛から出たねばねばした液で身動きがとれなくなってしまい、やがて虫はナガバノモウセンゴケの栄養分になってしまう。

⑤尾瀬のトンボ

尾瀬を代表するトンボはハッチョウトンボで、日本で一番小さい。真っ赤なオスはよく目立つ。また、尾瀬で最初に見つかった青いイトトンボは、オゼイトトンボと名づけられている。尾瀬ヶ原では 31 種類、尾瀬沼では 20 種類のトンボが記録されている。

4 ○歩く道は？

人の踏みつけによる湿原の破壊<sup>はかい</sup>を防ぐため、木道が設置されている。

○トイレは？

湿原の富栄養化<sup>ふえいようか</sup>を防ぐため、トイレと浄化槽<sup>じょうかそう</sup>が設置されている。

○ゴミは？

自分の出したゴミは自分で持ち帰る「ゴミ持ち帰り運動」が昭和 47 年から始められた。

5 (自分の考えを書きましょう)

## 〈B コース中学校用解答例〉

1 (位置) B (3つの県) 群馬県 福島県 新潟県

2 (1) ①至<sup>しづつさん</sup>仏山 ②鳩待峠 ③山ノ鼻ビジターセンター ④尾瀬ヶ原  
⑤燧ヶ岳 ⑥尾瀬沼 ⑦アヤマ平

(2) 省略

3 (1) ア 1400 イ 低

(2) (火山灰層浅間 A) 1783 (火山灰層浅間 B) 1108

(3) 200 (または 206)

(4)

①池塘<sup>ちとう</sup>

尾瀬ヶ原にある大小さまざまな形をした池のこと。数は約 1500 ほど。深さは 1m ほどのものが最も多く、3m を越えるものもある。

②ブルテ

谷地坊主と呼ばれ、湿原の表面から半球状に突出している小さな塚のこと。

③ケルミとシュレンケ

泥炭でできた帯状の凸地<sup>とつ</sup>をケルミという。ケルミとケルミの間に帯状にのびる凹地<sup>おう</sup>をシュレンケという。ケルミとシュレンケは何列も集まって、縞状<sup>しま</sup>の地形をつくっている。

④掘水林<sup>きょすいりん</sup>

湿原の中に帯状に連なる森林地帯のこと。川が山から運んできた砂が、川の両岸に堆積してできた自然堤防に樹木が生えてできたもの。

⑤高層湿原・中間湿原・低層湿原

湿原が地下水位より低く、いつも水につかっている場合を低層湿原という。湿原が地下水位より高く、水分の供給を雨水に頼る場合を高層湿原という。これらの中間タイプの湿原を中間湿原という。これらの湿原は、環境が異なるため、生育する植物の種類にも大きな違いが見られる。

⑥蛇紋岩残存植物と蛇紋岩変形植物<sup>じゃもんいわ</sup>

蛇紋岩地の特異な環境により他の植物の進出から免れ生き残った北方系の植物を蛇紋岩残存植物といい、コバノツメクサ、タカネシオガマ、オゼソウ、ミヤマウイキョウなどがある。また、蛇紋岩地の岩質により形が変形した植物を蛇紋岩変形植物といい、ホソバヒナウスユキソウ、クモイイカリソウ、ジョウシュウアズマギクなどがある。

⑦ナガバノモウセンゴケ

食虫植物で、細長い葉の表面にはねばねばした液<sup>えき</sup>を出す腺毛<sup>せんもう</sup>という毛が密生<sup>みつせい</sup>している。この葉に虫がとまると腺毛から出たねばねばした液で身動きがとれなくなってしまい、やがて虫はナガバノモウセンゴケの栄養分になってしまう。

⑧尾瀬のトンボ

尾瀬を代表するトンボはハッチョウトンボで、日本で一番小さい。真っ赤なオスはよく目立つ。また、尾瀬で最初に見つかった青いイトトンボは、オゼイトトンボと名づけられている。尾瀬ヶ原では 31 種類、尾瀬沼では 20 種類のトンボが記録されている。

(5) 尾瀬は長い年月をかけて形成された地域で、希少な動植物などが見られるから。

4 尾瀬に行った時、しっかりと木道を歩き湿原の中に入らない。また、ゴミなどは持ち帰るようにする。

(パネルでは表現されていないが) 地球の温暖化が尾瀬の環境にも影響を及ぼしていると考えられる。そこで、節電などふだんの生活で温暖化防止につながることを心がける。

5 (自分の考えを書きましょう)